

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	和田ここわ保育園
法人名	株式会社ディアローク
法人所在地	東京都渋谷区渋谷3-8-12 渋谷第一生命ビルディング7階

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

当園が開園以来継続して行っている教育活動の中の【英語】を活かしながら【ことば】についての探究活動を実践し、非認知能力の向上等の保育内容の充実を図ります。2025年度はことばの中でも英語と日本語の【オノマトペ】に注目をします。

<テーマの設定理由>

当園は開園以来、外国人英語講師が週2日来園し、レッスンでは保育者も生徒として園児と一緒にレッスンを受け、保育者も園児も英語は身近なことばとして存在しています。2024年度は子どもたちが同じ絵本、同じメロディの歌を日本語と英語で体験、体感することで、ことばに対する興味が拡がりました。2025年度は子どもたちがさらに主体性を持って活動するように、ことばの中でも英語と日本語の【オノマトペ】に注目しようと考えました。またこの【オノマトペ】は乳児にも取り組みやすいテーマではないかと考えました。

## 2. 活動スケジュール

【対象】3歳児クラス

【問いかけ】保育者が動物の鳴き声について問いかけました。「このどうぶつ、どんな こえでなくかな?」「どうぶつえんで、どんな こえしてたか おぼえてる?」「びっくりした? おおきい こえだった?」「エム先生は えいごでおはなしするね。」「えいごでも、ワンワンっていうのかな?」「おなじかな? ちがうかな? どう思う?」

【流れ】英語講師の来園日には、英語で動物の鳴き声の入った歌を歌い、保育者は子どもたちと一緒に参加します。また自由遊びの時間に保育者が日本語で動物の鳴き声の入った歌を歌い、どうぶつ図鑑で動物の本物の鳴き声を皆で聴き、英語講師は子どもたちと一緒に参加します。また皆と一緒に英語で使っている絵カードで《オノマトペ》遊びをします。このように、子どもも大人も一緒に英語と日本語での《オノマトペ》を共有します。

【探究活動の実践と記録】英語活動の際には保育者が記録し、日本語活動の際には保育者とともに英語講師も記録し、特に子どもが英語を発している際のことばや音の聞き分けを担当しました。

【振り返りや共有】毎月月末に英語講師と職員のブリーフィングをおこなっているので、そこで探究活動の共有を行い、次月の問いを考え環境設定や探究活動のスケジュールを話し合います。保育者同士は職員会議で振り返りや共有を行います。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【環境設定】英語講師の来園日に探究活動を行うよう環境を設定しました。

【素材】

\* 同じメロディの日本語と英語の歌：「ゆかいな牧場」と"Old McDonald had a farm"

\* 絵カード：動物、乗り物、オノマトペ絵カード

\* どうぶつ図鑑：本当の動物の鳴き声とは？



#### 4 -①. 探究活動の実践（日本語）

<活動の内容>①「ゆかいな牧場」を保育者が日本語で歌う。英語講師も同席して一緒に聞く。

3歳児クラス：れもん組

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

保育者が絵カードを出しながら歌を歌うと興味をもって見ていた。「聞いたことある」と自分の経験を話したり「牛だ」とカードの動物の名前や「モーモー」と鳴き声を真似たりする子もいた。歌を知っている子は一緒に口ずさんでいた。動物が出てくるたびに笑い合い、保育者を真似て歌おうとする等楽しんでいった。同席している英語講師に笑いかけたり「牛だ」など日本語で話しかける子もいた。

#### 4-①. 探究活動の実践（英語）

<活動の内容>①「ゆかいな牧場」と同じメロディ"Old McDonald"を英語で歌う。

3歳児クラス：れもん組

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

英語講師が英語で歌い始めると「英語もあるの?」と驚いていた。先ほど親しんだため一緒に歌おうとしたが、鳴き声がちがうことにまた驚き「（鳴き声が違うため間違えていると伝えるように）違うよ」と話す子がいた。他の子が「英語ってこと?」「英語なんじゃない?」と気がつく「え?」と驚きと発見のような表情になり英語の歌として楽しみ始めた。「え〜」と英語の鳴き声に驚きながらも笑って楽しそうに真似ていた。



#### 5-①. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】同じメロディを日本語と英語で歌ってみることで違っている部分に子どもたちが気がつき、気がついたことを言葉にして保育者や友だちと共有していた。違う事を驚き、不思議に思う気持ちが日本語と英語の違いへの興味に繋がっていった。取り組んだ動物の鳴き声以外にもおやつメニューに英語でやった食べ物が出ると「英語でやったよね!」と思い出して英語で発音するなど英語に対する興味は高まっていた。

【次回への問い】英語のレッスンで使用しているカードをレッスンで使う場合と、自由遊びの中で同じカードを使うことで、子どもたちは英語をより発音するようになるのか、またどのようにカードを使って活動するのだろうか?

#### 4-②. 探究活動の実践（英語絵カードを英語レッスン中に使う）

<活動の内容>②英語レッスン中に"Animal"(動物)の英語絵カードを使う

3歳児クラス：れもん組

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

英語のレッスン中は講師の話聞きレッスンの流れに沿って活動に参加していた。絵カードが出ると覚えている子は英語で動物の名前を言った。鳴き声は子どもたちから出てくる事はなく、カードが出たら動物の名前を言うという流れになっていった。保育者が鳴き声を発するとそれを真似て英語の鳴き声を発する子もいた。

4-②. 探究活動の実践（英語絵カードを自由遊び中に使う）

<活動の内容>②自由遊び中に"Animal"(動物)の英語絵カードを使う。英語と日本語の動物の鳴き声を比較した後、図鑑を使って本当の鳴き声を皆で聴く。

3歳児クラス：れもん組

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

自由遊びで使った際は「英語で見たやつ!」と気がつき、英語で動物の名前を発し、英語講師を見て確認していた。合っていると喜び、違う際は英語講師が動物の名前を伝えるので真似て発していた。鳴き声は子どもたちから出てくることはほとんどなかった。英語講師と絵カードを使っているうちに英語講師が発した動物をタッチするというゲームに発展していきゲームを楽しんだ。

4-②. 探究活動の実践（日本語でも英語でもなく、本当の動物のなきごえは?）

<活動の内容>②自由遊び中に動物のなきごえ図鑑を使って本当の動物のなきごえを皆で聴く。

3歳児クラス：れもん組

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

図鑑から鳴き声が聞こえてくることが楽しいようで、みんな興味をもちやりたいと集まって来ていた。動物の鳴き声が聞こえると鳴き声を真似する子や笑顔を見せながら聞いている子、「〇〇だ!」と動物の名前を言う子など様々な反応が見られた。



#### 5-②. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】英語のレッスンでは講師を真似て名前や鳴き声を発して楽しんでいた。鳴き声よりも動物の名前が記憶に残っているようで、自由遊び中は動物の英語名を思い出そうと考えたり英語名を発する子が多くいた。英語のレッスンと同じカードを使ったことで講師が同席していない場合でも、講師と楽しんだ記憶から「英語でなんていうんだっけ？」と友だちと英語を考えて楽しむ姿が見られ、自然と英語を意識する時間となった。

【次回への問い】英語絵カードを違う種類にすることで、動物の鳴き声ではなく、また違うオノマトペに子どもたちはどのように気づき反応するだろうか？

#### 4-③.探究活動の実践（英語絵カードを自由遊び中に使う）

<活動の内容>③自由遊び中に"Vehicle"(乗り物)の英語絵カードを使う

3歳児クラス：れもん組

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

自由遊び中はカードにたくさん触れ「車」「飛行機！」など日本語で乗り物の名前を言い、友だちと楽しんでいた。「英語のカードじゃない？」と英語で使う絵カードかもしれないとカードに興味をもつ子もいた。

#### 4-③. 探究活動の実践（英語絵カードを英語レッスン中に使う）

<活動の内容>③英語レッスン中に"Vehicle"(乗り物)の英語絵カードを使う

3歳児クラス：れもん組

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

英語のレッスンでは車や船などカードを見せながら英語でのオノマトペを言ってから日本ではどうやって言うのかという質問をしていた。イメージしやすいもの（バス、飛行機）はすぐに答えていたが、ヘリコプターや船など馴染みのないものでは悩む姿も見られた。

#### 5-③. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】自由遊びの時は好きなようにカードに触れて楽しんでいた。英語で講師が出す絵カードによく似ている形状だったので英語で使う物かも・・・と考える子もいてカードに対する興味が広がっている姿が見られた。英語のレッスンになると講師を真似て乗り物の名前や音を楽しんでいた。同じカードを使っていることで自由遊び中も英語のレッスンを思い出したり考える時間となっている。

【次回への問い】英語講師、保育者も含めて子どもたちとオノマトペの絵カード遊びを通して子どもたちは擬音語や擬態語にどのように興味を深めていくのだろうか。

#### 4-④. 探究活動の実践（オノマトペ絵カード）

<活動の内容>④保育者、英語講師と一緒に絵カード遊びをする：絵を見て子どもたちが擬音語、擬態語を言う。英語講師も英語で擬音語や擬態語を言う。

3歳児クラス：れもん組

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

子どもたちから擬音語や擬態語は出てこなかったのに、保育者がきっかけとなるような言葉をかけながらすすんでいった。慣れてくると、日本語での音を考え、声に出す子もいた。英語講師が英語で音を表すと「えー」と違いに驚きながら、真似て発していた。

#### 5-④. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

**【振り返り】** 日頃から、子どもたちは会話の中で音を表すことはある。（カラスがカーカーって鳴いているね、ジャンプ見ててねぴょんぴょん等）身近な音や擬音語は言葉で出てきやすいが、擬態語はなかなか出てこなかった。しかし今回の活動を通して擬態語にも興味をもっている様子があり、発見を楽しんでいた。

**【次回への問い】**

子どもたちはことばには日本語も英語もあり、またそれ以外に様子を表す擬態語や擬音語もあって、しかもそれらにも日本語や英語特有の音があることに気づいたかもしれない。また園には日本語や英語以外のことばを話す友だちもいることから、日本語・英語以外の世界についても興味をもち探究活動が広げられるのかもしれない。